

令和4年度 第2回総合教育委員会議 会議録

令和4年度第2回総合教育会議が、令和5年2月24日(金)午後1時30分に役場第5会議室に招集された。

議 事 日 程

第1 開 会 午後1時30分開会

第2 村長挨拶

第3 議題

◎教育大綱・令和4年度 教育行政執行方針の総括について

◎令和5年度村政執行方針について

第4 その他 ※議題なし

午後2時30分閉会

議事録署名委員

原本署名済

議事録作成職員 教育次長 阿部 孝好

〔出席者〕 村 長 伊 藤 浩 一

教 育 長 眞 坂 潤 一

教育長職務代理者 桧 物 誠

委 員 榛 澤 弘 章

〔欠席者〕 委 員 近 野 由 恵

〔出席職員〕 教 育 次 長 阿 部 孝 好

教育次長補佐 鈴 木 淳 司

給食センター所長 西 口 亮 一

教育指導員 浅 野 孝 一

- 阿部教育次長：時間前なんですけど、お揃いになりましたので今日近野委員は欠席ということで連絡を受けております。伊藤村長それではよろしく願いいたします。
- 伊藤村長：はい。改めて、皆さんこんにちは。
- 一同：こんにちは。
- 伊藤村長：ただいまから『令和4年度の第2回猿払村総合教育会議』を開催いたします。教育委員皆様の方々に対しましては大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。本年度は2回目の開催となり、先月開催したばかりですが、本日も会議にご出席をいただき、そして教育行政の推進に日頃からご尽力いただいておりますことに感謝申し上げます。今日は本年度の教育行政施策の総括と次年度の執行方針などを議題として、村と教育委員会がしっかり連携し、教育の向上を目指してまいりたいと考えております。それでは本日の会議につきまして、要綱の規定による傍聴者について事務局より報告願います。
- 阿部教育次長：はい。村ホームページにて本日の会議を告知しておりましたが、傍聴を希望される申し出はありませんでしたのでご報告いたします。
- 伊藤村長：はい。傍聴者はいないということですので、このまま議事を続けさせていただきます。それでは次第に従いまして議事を進めさせていただきます。それでは、『教育大綱・令和4年度教育行政執行方針の総括について』をテーマに意見交換をさせていただきます。本日は、上位計画に基づく令和4年度教育行政執行方針について、具体的施策を教育委員のご意見を基に総括し、次の議題であります令和5年度村政執行方針についてご提案し、また、令和5年度の教育行政執行方針については後ほどの教育委員会議の中で審議になろうかと思いますが、それに繋がるような意見交換をしたいと思います。それでは、「令和4年度教育行政執行方針の総括について」教育次長から説明を願います。
- 阿部教育次長：それでは「令和4年度教育行政執行方針の総括について」説明をさせていただきますと思います。事前にこちらのカラーの資料をお配りをしておりますが、こちらの資料を送付しておりましたので内容をご覧いただけていたかなと思います。施策ごとに要点のみ説明をさせていただきますと思います。項目ごとにちょっと長くなりますがお聞きいただきたいと思います。1ページ目からです。「全国学力・学習状況調査等の結果分析と課題把握、学力向上の取組の促進」について全国学力・学習状況調査の結果は今年度も全道・全国平均を下回る結果となり、学力向上の取組の成果が表れているとは言えない結果となりましたが、この結果を真摯に受け止め村内の回覧で12月ですが、こちらの結果を公表し、学力向上に向けた意識を高めてもらうということ、そちらを学校だけではなく公設塾の取組を含めて学力向上を重点課題として取組むべきという事で、公表についても行っているところです。続きまして、「学習指導要領の円滑な実施と授業改善に向けた研修機会の充実」について先生方は学校内でも研修を重ね日々の授業づくりに腐心しております。求められているICT活用については教委主催の研修会を開催し、先生方の力量向上に努め、今後も求められる要素の研修会を開催していきたいと考えております。続いて、「学習意欲向上のためのサポート学習の実施による家庭学習の定着と強化」について今年度は、夏・秋・冬と計画した取組をオンラインではなく、集合の開催が2年ぶりに全て実施をすることが出来ました。先週実施した冬期の事業につきましては学生10名が泊4

日で猿払村にお越しいただき、3日間の学習会を開催しております。小学生も16名参加と久しぶりに賑やかで実りのある学習会が実施できております。こちらには公設塾の講師の学生も参加いただきましたので、塾会場で直接指導も実施いただき連携した取組の第一歩が出来たと考えております。続いて、「ICT環境(iPad)による『個別最適な学び』・『協働的な学び』の推進と家庭学習の活用促進」について積極的なICT活用がますます求められているところですが、今年度はAIドリルを実証で導入し、夏から活用をスタートしております。授業だけではなく、家庭学習や宿題としても活用が進められており、効果的・効率的な運用を学校と知恵を絞りながら実施してまいりたいと考えております。続いて「猿払村教育研修会を中心とした保・小・中連携の促進」について全教職員で組織する猿払村教育研究会において、今年度は保育所・小学校・中学校の連携強化を図るための検討会議を設けて保育所から小学校への接続、小学校から中学校への接続を強化するためのスタートカリキュラムの作成に着手いただき、次年度から本格運用することとなります。今年の検討の成果により連携や接続の強化が期待されるところであります。続いて、「ALTの活用による外国語教育の充実」について今年度においては小中のALTの配置換えも行い、学校の外国語・英語の授業の充実が図られるよう、試みてはいるところですが、4年長く務めたALTも退任ということで、おおむねALTの外国人は2年程度で村を離れてしまうため、長く定着してもらうためにはALT個人へのサポートも不可欠な状況となっています。コロナの行動制限が消えつつありますので、これまで控えておりました諸外国への研修の検討をそろそろ実施していかねばならないかなというところも考えているところです。続いて「教育指導員による学校教育の技術的・専門的事項における学校への指導助言と授業改善に向けた取組の支援」について浅野先生も配置からもうすぐ丸5年となります。村の子ども達や学校の現状を誰よりも把握する貴重な存在となっております。教育委員会の職員が学校へ日常的に行って現状を把握することは私どもでは難しいところではありますが、教育指導員という存在でよき学校現場とか教育委員会のパイプ役を務めていただいております。課題である学力向上に繋がるよう一層の学校現場への指導助言を行ってもらうこととしたいと考えております。「村費教職員や学校支援員の配置による教育的支援」について今年度は学校支援員が2名途中で退職し、学校が求める支援員の配置を満実に実施ができませんでした。募集を行っておりますが新しい人材もなかなか見つからず正直、人伝や個人的な繋がりなどを頼りにせざるを得ない状況です。人材確保は今後も努力していかねばならないと考えております。続いて「猿払村奨学資金貸付基金の積極的な周知」について制度も定着しつつあり、今年度は新規で2名の決定を行っております。独自の制度として今後も学生支援を継続していきたいと考えております。”生きる力を支える確かな学力の定着”の最後の項目となります。「公設塾による児童生徒の基礎学力向上支援」についてです。昨年5月に開校し、正直、参加児童生徒数もそうですが、オンラインでの学習指導という新たな試みでしたので期待していた児童生徒数の参加がみられほっとしているところです。また、回を重ねる毎に子供たちの学習に向かう姿勢が向上する様子も見られております。今年度実施しながら見えた課題などを解消するため、新年度は委託事業ではなく直接塾運営を行うこととし、学習指導の質の向上を

目指して取組を進めてまいりたいと考えております。続いて、“生きる力を支える豊かな心と健やかな体の育成”の項目に移ります。「情報モラル教育の充実や情報機器等利用に関するルールづくりの促進と基本的な生活習慣の定着化」について、スマホなどメディアの利用は低年齢化、長時間化する傾向は顕著にみられております。SNSによるトラブル、インターネットに潜む危険、依存による生活習慣の乱れなどメディアは子ども達に様々な影響を引き起こし、保有や利用が避けては通れない状況となっておりますので、正しく使う力の育成が必要だと感じております。学校も児童生徒への指導は常々行い、また保護者へも正しい利用を訴えかけているところですが、低年齢化や利用時間の増加の進行は、むしろ進んでいる現状ではないかなと思っております。学校にあるiPadも持ち帰りが推進がされておりますので、そちらがトラブルの火種にならないようできる限りの対策を実施しているところであります。続いて「フッ化物洗口による歯の健康促進の推進」についてデータから実施の効果もみられており、新年度からは全校全学年の取組となります。今後も安全な実施を行っていきたいと考えております。「学校保健委員会と連携した実態把握に基づいた体力向上活動や児童生徒の健康維持に関する取組の支援」について、コロナの感染症の関係で会議の中止が一度ありましたが、調査結果から見られる村の子どもの体力や健康面での課題について共有をし、その対策を検討し、保護者にも理解いただく情報の発信を行っております。学校医であります病院長も積極的にこの会議には参加をいただいております。子ども達の健康保持のためこの委員会の取組を今後も大事にしていかなければならないと考えております。「学校図書の実用と子ども達の自主的読書活動への支援」について、スマホなどメディアの保有率の低年齢化はこちらにも影響を及ぼしているのではないかなと考えられます。今年度の図書貸し出し冊数の結果はまだ判明しておりませんが、スマホだけでなく小学生もタブレットを家庭学習のため持ち帰り使用する状況でありますので、タブレット一辺倒ではなく読書活動の推進も念頭に置きつつバランス良い取組が求められると考えております。「個々の子どもの特性に応じた教育支援の充実と適切な特別支援学級の設置」についてです。教育支援委員会開催による判定を行い、その結果を保護者と面談を行い意向を踏まえながら就学先を決定しておりますが、普通学級入学に特に強くこだわる保護者に対しては、入学後の経過観察で学校の集団生活の中の状況を理解いただきながら、引き続き適切な学級への転級も含めて、就学時だけではなく入学後の状況も丁寧に協議していかなければならないと考えております。続いて「衛生管理を徹底した学校給食提供のための給食センター改築事業実施設計業務の着手」について、です。委員の皆様にもイメージ図や平面図をご覧いただき、新しい給食センター施設の概要をご理解いただけたらと思っておりますが、安心安全な給食提供と食育の推進を行うための拠点施設として、順調に補助採択がなされることを期待しておりますが、工事工程につきましても検討の結果、令和5・6年度の2か年工事としましたので、現施設もあと2年間は使用することとなりますので、こちらを使用する間の適切な維持を行っていかねばならないと考えております。「食育及び食物アレルギー対策の充実」についてです。感染症対策としていわゆる黙食を約3年間実施し、今年の3学期からは喫食中の会話は向かい合わせではなく、小さな声ならば可ということで、事実上黙食を取り止めて

おりますが、急に元に戻ることはなく、子ども達の楽しい給食の時間はただ食事をとるための時間となってしまっております。感染症対策の緩和とともに徐々に子ども達にとっては給食の時間は美味しい給食を笑い語らいながら食べる「楽しい時間」となり、ひいては学校に行く楽しみの一つとなるよう給食センターの職員の方々が努力と工夫を凝らして毎日の給食の提供。また、都度都度の給食のイベントを実施しております。もとの楽しい給食の時間が取り戻せるよう努力を重ねてまいりたいと考えております。3番目の項目です。”期待され、信頼される学校づくりの推進”についてです。まず学校運営協議会の活動推進と、情報発信の充実についてです。今年度も会議で活発な議論を行う状況とはなりませんでしたが、書面会議は極力廃止、極力行わず集合の会議で各学校とも開催を取り組んでいただいております。先日の学校配置に関する考え方も含めて、学校にとって重要案件を扱える会議でありますので、形骸化せず協議会の議論を学校づくりに生かしていけるよう取組んでいきたいと考えております。「校舎・体育館内の安全な活動の確保のための校内施設整備の実施」についてです。今年度も各所の修繕のほか、工事により学校の環境整備を実施してまいりました。しかしながら抜本的で大規模な改修が必要な状況に迫られています。給食センター改築事業が2か年工事となり、その後の大型事業も教育関係では複数の事業の同時実施は難しいと考えられますので、計画の遅れを最小限度にしながら、改修に着手していきたいと考えております。「特色ある教育活動に対する支援」について、浅茅野小学校で実施するクロスカントリースキーの取組を機械のリース等で支援を行っております。昨年度は地域おこし協力隊と協力しPR動画も作成するなど独自の活動を続けており、小規模だからこそできる取組として、今後も支援は継続してまいりたいと考えております。続いて「小学校への校務支援システム導入に向けた検討など教職員の働き方改革推進のための各種取組の実施」についてです。今年度当初に1年間実際にシステムを使用した中学校教諭に校務支援システム使用におけるアンケート調査を実施し、運用面での成果や課題について聞き取りを行いました。アンケート結果としてはシステム導入＝即業務効率化とはならず、逆にこれまで使い慣れたデータ等をシステムで管理することはなかなかの労力を必要とし、1年使ってもまだ苦勞しているという状況が伺っております。校長会や教頭会でもこの結果を提示し、システム化自体は推奨されているものですが、まだ必須とはなっておりませんので、また、現場の教職員の中にも導入に賛否があるというところもありますので、もう少し必要に迫られる時期までは導入を待とうかと考えているところです。働き方改革推進については、小学校では設定しております残業時間の上限時間を超えない先生の割合が今年は特に増加し、働き方改革の取組、意識の向上が高まり結果として現れている状況です。一年間のデータが取れましたら皆さんにもご覧いただきたいと考えております。一方、中学校ですが、やはり放課後の部活動の存在がありますので、部活のある平日は生徒の下校時間がそもそも職員の所定の退勤時間より遅いという現状がある中では定時退勤することは事実上不可能となっている状況です。ただ、全体の残業時間は減少傾向にありますが、残業時間が設定している上限を超える職員多くなっているというのが現状です。次の「中学校における部活動の地域移行に向けての調査・研究」にも絡みますが、そのイメージづくりも難しく正直、進められていない

ということが現状です。しかしながら、働き方改革の観点では中学校の部活動の方法、やり方を改めない限り働き方改革が進まないということが中学校でははっきりしていますので、猿払村として望ましい部活動の地域移行の形を模索し進めていかなければならないと考えております。

「教職員住宅の修繕による快適生活の維持・向上」についてです。村内の教職員住宅も半分以上が築25年を経過し、屋根・外壁の傷みが目立ってきており、そこから来る影響も現れだしております。予算の関係上手を掛けたい住宅すべてをいっぺんに改修することは出来ませんので、何棟かずつでも着実に改修をしていきたいと考えております。「教職員の服務管理指導の徹底と不祥事未然防止」についてです。教育委員会の独自の取組を開始してから、重大懲戒事案発生が0件となっていますので、一定の効果があったのではないかと考えております。独自の取組がマンネリにならないよう、コンプライアンス意識が高い位置で維持されるよう内容を工夫しながら今後も実施してまいりたいと考えております。最後の項目になります”村を愛し誇れる豊かな心を育み魅力あふれる地域づくりを目指す社会教育の推進”についてです。オンラインやハイブリッド方式を活用した生涯学習機会の提供についてです。計画自体を見送ったものもありましたが、中央芸術学校公演や少年の主張大会はオンライン開催を実施し、生涯学習機会の確保に努めてまいりました。世の中は緩和の方向に確実に向かっておりますが、今後もオンラインを併用しながら学習機会の提供と確保を図ってまいりたいと考えております。「スポーツ・文化活動団体の全道・全国大会への参加支援と個人活動も含めた日々の活動に対する支援」についてです。大会の中止等はほぼなくなり、各団体の活動も元の状態に戻りつつあり全道大会出場を果たした団体には遠征費の補助を行い支援を実施してきております。人数減少により団体活動の維持が難しくなっており、ニーズの多様化や習い事のエリアが確実に拡大しておりますので、なかなか児童、保護者のニーズにマッチしないと団体加入には繋がっていかないのかなという状況です。各団体の意向も聞きながら、必要な支援を実施してまいりたいと考えております。「感染対策を徹底した中での村民への運動習慣の定着や体力向上のための体力測定会・運動教室など体を動かす機会の提供」についてです。行動制限が緩和をされたタイミングでは運動教室の実施を予定していましたが、ちょうど開催予定時期に村内のコロナ感染が急拡大しまして、一度開催を延期しております。しかしながら今年度の中では実施を予定してまいりたいと考えております。村民の運動習慣の定着や体力向上のためトレーニングルームの需要も幅広い村民ということではありませんが、かなり高まっているという傾向にあります。こちらの機器の更新も行いながらニーズに応じていきたいと考えております。「安心安全に活動できる環境整備のための各種施設の改修や維持管理」についてです。学校施設同様大規模な改修が必要な状況に迫られております。まず改修すべき内容の調査の実施を検討しながら、スポーツセンターなど社会体育・社会教育施設の改修を実施していきたいと考えております。最後に「旧浜猿払小学校の施設と収蔵する郷土資料の利活用」についてです。今年度も満足な利活用とはなっておりませんが、今年度は一度企画展を実施することが出来ております。さらに拡大した利用や利活用は正直難しい面はありますが、できうる内容での利活用を今後も実施しながら、施設及び郷土資料の利活用を図ってまいりたいと考えております。

以上、今年度の総括資料の説明とさせていただきます。この場で教育委員の皆さんには、評価と今後の課題についてご質問やご意見を受けたいと思います。項目は多岐に渡りましたので、気になった施策に絞ってご質問いただければと思います。来年度の当初予算の編成も終了しましたので、まだ議会前ではありますが、来年度のその施策の取組予定も質問いただければお答えできるかなと思いますので、是非ご質問、ご意見いただきたいと思います。私からは説明以上となります。

- 伊藤村長 : はい。ただいま教育次長の方から説明がありました。皆様方から何かご質問・ご意見がありましたらお願いいたします。
- 桧物委員 : はい。いいですか。
- 伊藤村長 : どうぞ。
- 桧物委員 : 3 ページの 6 番の A L T の活用による外国語教育の充実ということで、A L T の方が短期間で離れる、離れたいということなんでしょうね、これ生活環境が満足できないといいますか、問題があるというふうに考えているということではないですか。
- 阿部教育次長 : 正直、よく聞くのは寂しいようです。やっぱり。友達が少ないというところで、インターネット社会ではありますけども、やはり都市部ですと同じ街の中に A L T が複数人 4 人、5 人とかは札幌なんかでいくとかなりの人数がいるようなので。どうしても最初の一年はなんとか居てくれるんですけど、2 年目 3 年目やってくれますかっていうふうに聞いたときには、大多数の人がもう少し大きなところで友達も増やしたいなっていうような意向が強くてですね。そればかりはもうどうしようもない部分ではありますので。
- 桧物委員 : 近隣の町村との A L T 同士の交流というのも
- 阿部教育次長 : 恐らく個人間ではあるとは思いますが、そもそも知り合いではない人が稚内だったり、いろいろな街に派遣されておりますので、ただ、研修だとかで知り合う場面はあるんですけど、そこは個人の。あまりそういうのが積極的にいかない人は家で閉じこもり気味になるというか、今、村にいる人は社交性がないわけではないんですけども、出来ても友達も少ないというところもありますので、その辺が課題かなというところですね。
- 桧物委員 : なるほど分かりました。なかなか難しいですね。あと、その次に書かれている海外研修ですか。子ども達の研修ということでいいんですかね。
- 阿部教育次長 : そうですね。コロナ前にちょうど海外に実際に子ども達に行く研修を議会の方で一回質問があつて、是非検討してみたいということでこちらの会議の中でも委員さんに前向きに検討したらどうかというところを、1 度まずどの学年がまずいいだろうかということも含めて保護者にその意向のアンケートを行ってみたいということで考えたんですけども、コロナ初年度の差し掛かる時にアンケートをやる＝実施するんじゃないかという雰囲気になるのであれば、この状況は控えた方がいいんじゃないかということでしたので、実際に調査もまだ行ってはいないんです。
- 桧物委員 : はい。
- 阿部教育次長 : なので、海外に行くにも待機期間ですとか帰って来てからも何日か出れないということも無くなりつつありますので、そろそろこの意欲だったり、あとは行くとするとどの学年が望ましいかというような調査をちょっと新年度の中で実施をしてみたいなと思っています。
- 桧物委員 : 実際に行くとなるとどこの国に行くかとかね、そういうのもありますし

ね。行政の力も借りないと出来ないと思いますし、ゆくゆくは都市とお付き合い深くなれば姉妹都市だとか経済的にも交流が深まるというのも考えられますので、是非進めていただければと思います。

○伊藤村長

：はい。ALTの関係は結構、教育委員会の職員も交流を深めながら買い物で稚内行ったり色々なところでサポートはしてくれているようですね。また子ども達の海外研修というか道、国内でもいいんですけど、今の状況をみるとオジョルスキーの方はそうとう今後のことを見ると、厳しいのかなというふうに思いますし、今次長からも話がありましたけれども、中頓別町が英語圏内でハワイの方にとということもあったりしていて、前に一回、小林町長から村長一回うちの方と一緒にやりませんかというようなお声掛けもいただいた経過もあるんですけども、教育委員の中で話をした時ちょっとコロナが出て来てしまっって頓挫してしまっったところもあるので、今後あの国内・国外関わらずアンケート調査を含めて一回委員会の方で調査をしていただいて、若いうちに色々な経験をしていただくというのがやはり非常にいいことかなというふうに思いますので、その分に掛かる経費については当然、村の方でしっかり負担をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。他に何かありますか。よろしいですか。教育長の方から何か補足等あります

○眞坂教育長

：そうですね。全国学テの結果についてはですね、小学校は幾つかの項目では、全国・全道平均を上回っているものもだいぶ増えてきております。ただ、平均すると、まだ下回っているということですけど、その差も大分少なくなってきたという現状にあります。猿払だけじゃなく宗谷管内全体として取組を強めている部分でもありますので、宗谷全体でもやっぱりかなり低い状況でもあるんですけども、中には全道・全国の平均を上回っている町も存在しているのも事実です。そういうことで、うちもなんとか学校を中心にですね、公設塾という事業を経て、それぞれ自分で学ぶという意識づけがこれからどんどん重なっていけば、だんだん力がついてくるのかなというふうにも期待しています。ICTについては、各学校それぞれ取組をしていただいております。AIドリルも試験で導入して、使いやすいということでこちらの方も新年度での予算を要求しました。そういったものを活用して、学校だけではなくて家庭に持ち帰って使えるようなそういう方法もとれるようになれば、またここでもできる楽しさっていうのも含めてですけど、子どもの成長につながっていくのかなという思いであります。あとは、給食センターもいよいよ建築工事に来年度そして2年間で入ります。おおよその外観が見えてきたときですとか、またそういうことで教育委員の皆さんにも途中見ていただく様な機会もつくってまいりたいと。所長はじめ全道各地のいろいろなところを見て来ていただいて、施設の衛生面ほか動線ですとか、非常に先進的な施設になるということで私も楽しみにしております。よその街の見本になるような施設に是非なって欲しいなという思いでございます。働き方改革の部分での中学校の部活動の地域移行というのが非常にどの市町村も非常に重たい荷物に今なって、やっとあちこち動き始めたというのが実状です。大きいところ、稚内市で言えば種目ごとに中学校を分けて野球は稚内中学校だとか、バトミントンは南中学校だとか、そういう分け方をしてなんとか維持していきたいという方向も今ちらちらそういう話しも出て来ているところです。ただ、うち中学校1校しかありませんので、部活、団体競技そのものの継続ということも非常に難しい状

況にもあるんですけれども、これまでやってきたようなよその、隣町との合同チームの構成だとかも、これはもう隣町との話し合いになると思うんですけど、そういった部分で今後中学校の部活動をどう進めていくかという今後また新たな課題が出てくるかなというふうな認識でおります。雑駁ですけど私からの補足は以上となります。

○伊藤村長 : はい。他にございませんでしょうかよろしいですか。

○一同 : はい。

○阿部教育次長 : ありがとうございます。いただいた意見は、この資料に修正を加えながら令和5年度に実施する教育行政の点検評価につなげさせていただきたいと考えております。ありがとうございました。

○伊藤村長 : それでは引き続き、令和5年度村政執行方針における教育関係分野についての提案をさせていただき、皆様からのご意見をいただきたいと思えます。教育次長の方から説明をお願いいたします。

○阿部教育次長 : はい。資料の方はこの1枚物の令和5年度村政執行方針（教育関係施策案）と最終稿というものをご覧いただきたいと思えます。こちら全体で1ページとなっておりますので読み上げて説明させていただきたいと思えます。”③教育・文化・スポーツ”《子どもの教育の推進》です。次代を担う子ども達の健やかな成長のためには、「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実が必要であり、学校・家庭・地域が連携した教育を推進できる教育環境の整備に努めていかなければなりません。そのため、「猿払村教育大綱」の理念と基本方針に基づき、教育委員会と連携を密にし、「生きる力を身に付け、心身ともに健康で個性豊かな子どもの育成」を目指した学校教育を進めてまいります。また、新たな教育環境の場所として、昨年度開設した小中学生対象のICT活用型公設塾「猿払村未来塾」の充実を図り、個別最適化された環境の中で家庭学習を補うことにより、基礎学力の定着・向上につなげてまいります。更には、給食センター改築をはじめとした学校施設の整備や、学習や生活面で支援が必要な児童生徒に対する特別支援教育の推進に努めてまいります。《生涯学習の推進》です。「生涯にわたり、あらゆる機会にあらゆる場所において学習できる」という生涯学習社会の実現のために、教育委員会が策定した新社会教育推進計画を推進し、自主的に学び続けることのできる機会の提供と、その成果を地域に活かせる環境づくりに努めてまいります。また、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底しつつ、村民の健康と安全を守りながら学びの機会を保障するとともに、芸術鑑賞や生涯学習講座などの学習機会を提供し、村民が学ぶことができる学習環境の整備や多様な学習活動を通して、村民相互の学習活動を支援し、地域に根付いた様々な文化活動の振興と地域コミュニティの活性化を目指してまいります。村政執行方針の教育分野における内容については、以上となります。ご審議よろしくをお願いいたします。

○伊藤村長 : はい。ただいま2項目について、村政執行方針における教育関係分野の説明がありました。皆様方からご質問ご意見があればお願いいたしたいと思えます。よろしいですか。教育長からなにか補足説明ありますか

○眞坂教育長 : 昨年までは、実は「子どもの教育の推進」そして「生涯学習の推進」はそれぞれその下の方に重点施策としてポツポツポツといくつかこう上げていたんですけれども、今年はそれをやめて文書に盛り込みましてまとめたという形です。教育委員会だけじゃなくて村の施策全体でそういうまとめにしようという動きでしたので教育委員会の管轄についてもその

ようにまとめさせていただきました。

- 伊藤村長 : はい。よろしいでしょうか。
- 一同 : はい。
- 伊藤村長 : それでは委員の皆様にも村政執行方針における教育関係分野についてご承認いただけたということで、この内容を3月7日に開会いたします令和5年3月定例村議会に私の方から方針表明という形で提案させていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは教育次長、次の議題に進めていただきたいと思います。
- 阿部教育次長 : はい。用意した議題は以上となります。その他も含めて意見交換等行っていただければと考えております。よろしくお願いいたします。
- 伊藤村長 : その他ということで委員の皆様方がでしょうか。第1回の総合教育会議後における1回目の会議の内容を受けて教育委員会議で委員の方々に報告することがあればまた、なにかと思いますけども
- 桧物委員 : はい。今年は村政100周年ですね。記念行事だとかはもうほぼ煮詰まっているのかなと思うのですが、是非子ども達も出来れば参加できるようなものとか、傍聴と言いますか見ることもできるそんなような配慮をしていただければと思います。子ども達がそれを体感・体験することで、120年、150年というふうに繋がって行ってその時に今の子ども達が、村を盛り上げていくそういう原動力・活力になればと思います。郷土愛ですね。郷土愛を是非育めるようにしていただければと思います。
- 伊藤村長 : そのとおりですね。私もそう思います。小学生・中学生からいろいろなご提案もいただいておりますので、全て提案をいただいたものを役場職員がやるのではなくて、7割、8割ぐらいまでは職員である程度下準備やっておいて、最後は子ども達、児童生徒も巻き込んだ中で物事も作り上げて欲しいということで各担当課の方には指示をしておりますので、私も提案いただいて、私が動かなければならないところはあちこち行きながら、前も話したかも知れませんが日本ハムファイターズの方へ行って、ファイターズガールを呼び込んできてキツネダンスを踊れるような形でなんとか4月に入ったら早速行ってこようと思っていますので。あとは中学生からもいろいろな提案もいただきましたので、その部分については予算化をさせていただいた内容もあります。また、教育委員会の方もあの生涯学習という形の中でいろいろな予算計上させておりますので、これからは僕たちの時代ではなくて子ども達の時代になってきますので10年30年、計100年後という形の中でしっかり子ども達に頑張っていて欲しいなと私も思いますのでよろしくお願いいたします。あと、教育次長の方から何か情報提供ありますか
- 阿部教育次長 : はい。資料は作っておりませんが、口頭で報告させていただきたい事項があります。前回の総合教育会議の中で議題として、説明の場をこれから設けていくということで確認させていただきました今後の児童生徒数の推移についての関係です。まず、3学期に各学校で開催されます学校運営協議会で教育委員会から説明事項として議題とさせていただきたいということを各学校に伝えており、先日会議でも説明しました学校別の今後の児童生徒数の推移を会議の中で説明していきたいと考えているところです。この1回目と本日の2回目の約1ヵ月の間に、2月2日に浅茅野小学校で学校運営協議会が開催されましたので、早速その会議の中で、私がこちらの会議で説明した浅茅野小学校の状況。向こう6年間の児童

生徒数、児童数の推移。それに伴う教員数がこのように変化しますということをお話の中で説明をさせていただきました。この会議には浅茅野台地の自治会会長さん、浅茅野地区の民生委員さん、保護者からもPTA会長が会議に出席して話しを聞いていただきました。ちょうどまたタイミングを掴んだようにその日の朝、稚内市の増幌小中学校が閉校決定したというニュースがちょうど出た当日でしたので、冒頭そのような話題も、出ていたところですよ。あくまで私は統合考えて下さいという話しをするものではありませんと、いうことをお伝えしたんですけども、児童数が減っていくこと、先生方の数もその児童数によって変化していくということを先ず事実を認識していただいて、地域や保護者の方で学校をどうしていくか、いきたいかというところを考えていただきたいという説明をしたんですが、自治会長さんの方からはですね議論の種をまいてくれて良かったというふうにも言われました。保護者にしっかり考えてもらいたいと地域としては保護者の意向を最大限尊重するというのを会長さんからはお話しいただいたところですよ。PTA会長もこれから保護者の集まりが年度末、年度当初でありますので、しっかりとこの件の話をしていきたいということを意見として伺っているところですよ。これから他の小学校でもこの学校運営協議会は開催されますので、浅茅野小学校だけでなく同様に学校の児童数の推移については全小学校で説明をしていきたいと考えております。中学校に対しては児童数の推移という話しではなくて先日情報提供させていただいた部活動の地域移行の関係を説明していきたいと考えているところですよ。私からは以上です。

○伊藤村長 : はい。今次長の方から説明はありましたけれども、これに関するだけでも構いませんし、他のことでも今までのことでも構いませんけれども改めて何かありましたらよろしいですか。

○一同 : はい。

○伊藤村長 : 実は先日、宗谷管内、上川管内の社長さん方とお話しする機会がありまして、道友会っていうのが企業の社長さん方とあって私は講師として1時間ほどということでは呼ばれて、色々なお話しをさせていただく中で宗谷管内とこう連携取れることは村長考えて何かないですかねみたいな話が振られたので僕のところは高校も大学も無い首長がこういう発言をするのはちょっと問題ありなのかも知れませんがともいう前置きをさせていただきながら、最近高校入試はずっとこうあって、倍率を見ると0.4とか0.5とか0.8というほとんど1を超える倍率が無いというところで多感な時期でそういう競争原理ではないんだけど、果たしてそれが子ども達のためにいいのかどうなのかっていうことも含めながらこの宗谷管内で高校7校くらいあるかと思っておりますけれども、その中でやはり特色を高校は出していかないと学区があるわけではないので、子ども達をいかにこの宗谷管内に留めておいて、そしてこの宗谷管内で就職をしてもらおうような活動だとかそういうことをしていかないとどんどんどんどんこの宗谷管内から子ども達が流出してしまっていくんじゃないでしょうかという形の中でこれから普通高校だけではなかなか難しいんじゃないでしょうかというところで、それぞれの高校の僕がこんなことを言うのもあれなんですけど、統廃合だとか他の市や町では子ども達をこういかにこう獲得しようかということではそれぞれいろんな努力はされているのは非常に理解は出来るんですけども、今後ますます子どもが少なくなっていく段階で、クラブ活動も満足に出来ないようなこう高校があったり

すると、非常に子ども達に申し訳ないというか可哀想だなんていう気持ちがあるのか僕なりのこう思っているんですけども、こんなこと他の町の市長や町長にぶつけるとお叱りを受けるのかも知れませんが、もうちょっと特色のある形の中でこういくらかずつ減らしたらだめなのかなってというような極端なことを言えばもう今も日本語だけではなくて英語ってというのが当たり前になってくるので、我々も高校へ行って英語が身に付いたかっていうと、そんなにほとんど身に付いていなくて宗谷管内に来たら英語圏特区でベラベラある程度話せるよとか、そういう特色ある形の中で宗谷管内で考えているような方法をないですかねというような話をさせてもらったんですけども、子ども取り合いしても喧嘩になってくると思うんですよ。うちも浜頓、稚内で少ない人数で取り合いして、浜頓、枝幸、中頓あの近辺あたりは浜頓と枝幸で取り合いとか、これから将来的に難しい問題だとは思いますが、そういう形の中で将来的になにかかにか連携していけるような特色ある高校づくりをしていったらどうですかねみたいな話をしたんですけどもどんなものですかね。これ言っちゃうと申し訳ない。他の首長には言えないなとは思いますが問題提起ではないんですけども自分として思っているんですけど。折角高校行ってもクラブ活動、団体の競技も出来ない。じゃあ、学力がすごいとか何か特色があるかっていうと、またそうではない。それから普通高校だけではなかなか難しいんじゃないかなというような新聞の記事を見ると思っていたものですから、それを話し合いの中でさせてもらったんですけども、確かに地域から子ども達がいなくなる。学校の先生がいなくなる。高校がなくなるというふうになるとその町がだんだんだんだん疲弊していくというところは理解するんだけどもそのためには振り分けしながらだんだんだんだん今、人手不足、労働力不足となってきた、うちの役場もそうですけどもなかなか各企業の人材がいらない。勤めてもらう人がいない。じゃあずっと外国人技能実習生に頼るのかっていうとそうもいかないとなると、どこかで大鉈を振っていかないとなかなか難しい場面が将来的に出てくるんじゃないかなというような思いは若干あるんですけども。その様なことを思って話をさせてもらいましたくらいで決して僕は進めろと言っているわけではなく、ここは高校も大学も無い首長なのであんまり無責任な発言も出来なかったんですけども、そんなことを皆で将来的に一緒に考えていければもっともっと他の企業の社長さん方と話した時にいかに宗谷管内から子ども達を出さないか、輩出してもちゃんと戻ってきてくれるかというような魅力ある企業づくりもしていかなければならないし、まちづくりもしていかなければならないんでしょかねと話もしていて、偉そうなこと言わせてもらったんですけど雑談というかその他ということで勘弁して下さい。

- 松物委員 : 子ども達がどんどん減っていってますからね。なんかかんかの変化がないと高校まではだめなんでしょうね。
- 伊藤村長 : 多分、地元もそうですし稚内管内もそうですけども企業に人がいなくなるというか人手がいなくなるというかその分機械化を進めれるところもあればどうしても人手がいないとだめだというような企業も当然ありますし、この宗谷管内だけでも人の取り合いというか。うちの職員も途中で次のステップ、次のステップといくような職員もそれはそれでいいんですけども抜けた穴をなんとか今のところは確保はできていますけれ

ども、なかなか地元の子どもが戻ってきて役場職員になろうかなって、令和5年度は1人2人いるんですけども、やっぱり地元の子どもが地元就職してくれるっていうのが一番望ましいのかなっていうふうに思っているんですけど。これから国の方も総力を挙げてこども家庭庁をつくったりいろいろな少子化対策に取り組んでいくという形*でやっていますけど早急には当然成果っていうのは見えてこないかも知れませんが、これから5年、10年、15年掛けて、もう一度しっかりやってみないと予想以上に人口減少が進むという国になってきましたので今更僕たちに子どもをもうけろと言われてもちょっと無理がありますけれども、なんとかしていかなければならないなというふうに思いますね。これといった解答は持ち合わせておりませんが、そこは皆で取り組んでいきたいなというふうに思います。ほかに何かございますでしょうか。よろしいですか。

○一同

: はい。

○伊藤村長

: はい。今年度2回目の開催となりました首長と教育委員、教育委員会の連携強化を図る会議が滞りなく開催でき、次年度に向けた教育行政執行方針のための方針が確率されたと考えます。世の中はウイズコロナに転換し、卒業式もマスクなしで、ということが文科省の方から通知をされ村内各学校でもその対応が進められると聞いております。このあとの教育委員会会議で教育委員会から説明されると思いますが、ご理解等をいただきたいと思います。5類に変更されたとしても感染症が消えてなくなったわけではなくて、経済やさまざまな分野、教育行政のみならず、村行政全般が計り知れないダメージを受けております。物価の高騰も相まって厳しい状況が続きますが、開村100周年の今年は様々な記念事業も計画しております。皆様のお力をお借りしながら村民が安心して暮らせる村を作り上げてまいりたいと考えております。本日は誠にありがとうございました。

○一同

: ありがとうございます。

○伊藤村長

: それでは次長の方にバトンタッチをします。

○阿部教育次長

: それでは議事は終了とさせていただきます。早速ですが、本日の会議録の署名委員につきましては伊藤村長・松物教育長職務代理者をお願いをしたいと思います。会議録を整理し、後日署名をいただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。引き続き教育委員会会議を行いたいと思いますが、一旦休憩を挟みたいと思います。よろしくお願ひします。これにて一度終了します。ありがとうございました。

《終了》

